

2017年（平成29年） 7月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

6/29~7/5のNYMEX・WTIは、44.93~47.07ドルで、3営業日続伸後、大幅反落した。

7月6日は、一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油が前週比630万バレル減、ガソリンが同370万バレル減と、市場予想(同230万バレル減、同260万バレル減)を大きく上回る減少を見たこと、ユーロ高・ドル安に伴い原油先物に割安感が出たことから、反発した。9月限の終値は前日比0.39ドル高の45.52ドルだった。

週末7日は、前日のEIAの米国原油生産量が934万b/dと前週比9万b/d増を示したに加え、ペーカーヒューズ社の国内石油掘削リグ稼働数が763基(前週比7基増)と24週振りの減少から一転増加したことなど、米国の供給過剰感の再燃で、急反落した。8月限の終値は前日比1.29ドル安の44.23ドルだった。

週明け10日は、ドル安・ユーロ高の進行に伴う割安感から買われ、反発した。8月限の終値は前週末比0.17ドル高の44.40ドルだった。

11日は、金融大手の原油価格見通しの下方修正の動きを受け、売り優勢で始まったものの、EIAの短期見通しで18年米産油量の下方修正、ドル安・ユーロ高の進行、24日予定のOPEC・非OPEC合同監視委員会で減産免除中のリビア・ナイジェリアの生産上限設定が検討されるとの思惑等から、続伸した。8月限の終値は前日比0.64ドル高の45.04ドルだった。

12日は、EIAの米国在庫週報で原油・ガソリンともに市場予想を上回る減少を示したことから、3営業日続伸した。8月限の終値は前日比0.45ドル高の45.49ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週46.30~48.40ドルの範囲で上昇傾向に推移した。7月6日は47.00ドル、7日は46.30ドル、10日は45.60ドル、11日は45.90ドル、12日は46.80ドルで推移した。

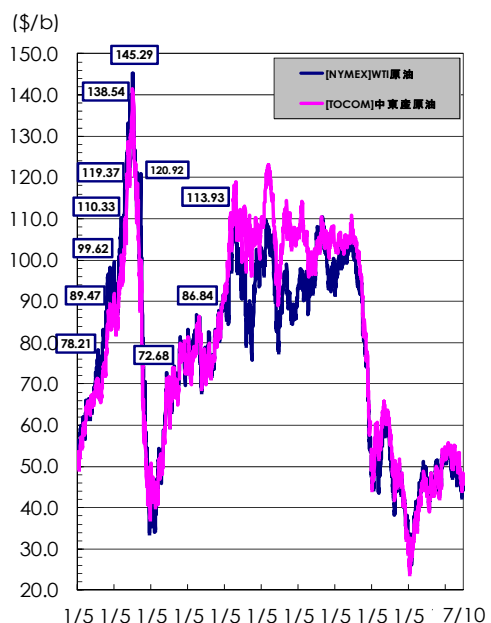
為替は、前週112.00~113.21円で円安方向に推移した。7月6日は113.04円、7日は113.28円、10日は114.17円、11日は114.22円、12日は113.72円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、6月中旬の原油輸入平均CIF価格は、36,786円/klとなり、前旬を53円上回った。ドル建てでは52.77ドルで前旬比0.52ドル高。為替レートは1ドル/110.82円。

主要元売会社の7月第3週に適用する卸価格は、ガソリン・中間留分ともに、0.5円から1.0円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、7月10日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの130.4円、軽油は横ばいの109.7円、灯油も横ばいの76.2円だった。ガソリンは12週振りの値上がり、軽油は5週振りに値下がりが止まり、灯油も12週振りに値下がりが止まった。この週(7月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、0.5円と1.0円の値上げに分かれた。

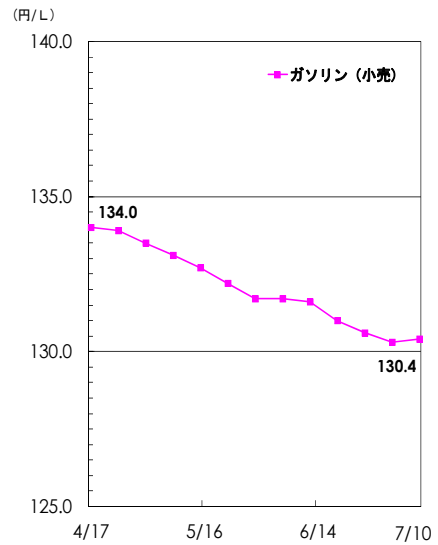
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/2 ~ 7/8	3,402 ▲118	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	86.9 ▲3.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/8	13,699 ▲710	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/10	45.78 ▼-2.32	▲ 2.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/10	44.40 ▼-2.67	▼ -0.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	52.77 ▲0.52	▲ 7.49
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	36,786 ▲53	▲ 5,900
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.82 ▲0.95	▼ -2.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/10	115.17 ▼-1.95	▼ -13.36



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/2 ~ 7/8	970 ▼ -9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	988 ▲ 72	▼ -	
	輸出	"	31 ▼ -61	▲ -	
	在庫	7/8	1,772 ▼ -49	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/4 ~ 7/10	50.1 ▲ 0.8	▲ 9.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/4 ~ 7/10	49.4 ▲ 1.4	▲ 8.7
		(TOCOM/中部)	7/10	48.9 ▲ 0.4	▲ 9.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/10	130.4 ▲ 0.1	▲ 6.9	

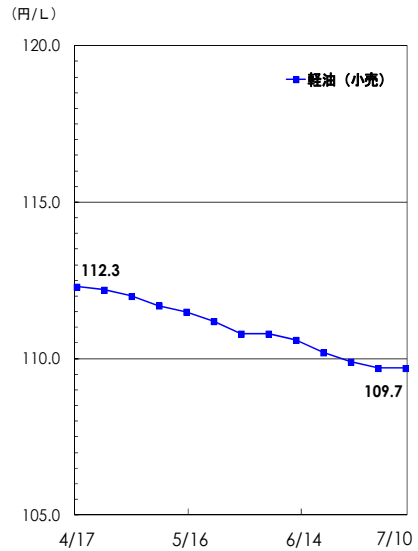
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

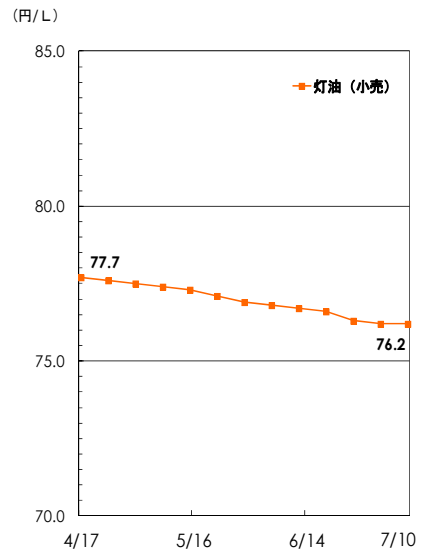
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/2 ~ 7/8	869 ▲ 75	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	714 ▲ 109	▲ -	
	輸出	"	148 ▲ 1	▲ -	
	在庫	7/8	1,513 ▲ 8	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/4 ~ 7/10	48.3 ▲ 0.9	▲ 8.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/4 ~ 7/10	48.0 ➡ 0.0	▲ 9.3
		(TOCOM/中部)	7/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/10	109.7 ➡ 0.0	▲ 6.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/2 ~ 7/8	143 ▼ -25	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	89 ▼ -47	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	7/8	1,606 ▲ 54	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/4 ~ 7/10	47.5 ▲ 1.1	▲ 8.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/4 ~ 7/10	47.3 ▲ 1.5	▲ 9.1
		(TOCOM/中部)	7/10	47.3 ▲ 0.8	▲ 9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/10	76.2 ➡ 0.0	▲ 12.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月12日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油が前週比760万バレル減と市場予想(同290万バレル減)を大きく上回る10カ月振りの大きな減少を示し、ガソリンも同160万バレル減と市場予想(同110万バレル増)に反し減少したことから、反発した。しかし、大きく上昇した後、夏場のドライブシーズンにもかかわらず米国ガソリン需要が弱いこと、OPEC月報が2018年も米シェールオイル増産で供給過剰が続くとの見通しをしたことなどが上値を削った形になった。8月限の終値は前日比0.45ドル高の45.49ドル、9月限の終値は前日比

0.43ドル安の45.66ドルだった。

EIAによると、7月10日時点のガソリンの小売価格は前週比3.7セント値上がりの1ガロン2.297ドル(69.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.9セント値上がりの2.481ドル(75.4円/ℓ)。ガソリンは5週振りの値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月2日～7月8日に休止したトッパー能力は39.0万バレル/日で、前週に対して横這い(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は340.2万klと、前週に比べ11.8万kl増加。前年に対しては7.9万klの減少。トッパー稼働率は86.9%と前週に対して3.0ポイントの増加、前年に対しては5.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.9%減、ジェット/16.8%減、灯油/14.7%減、軽油/9.4%増、A重油/28.3%増、C重油/9.7%増。今週のC重油の輸入は1.9万kl(前週比5.2万kl減)。軽油の輸出は14.8万kl(前週比0.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では、軽油のみが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は98.8万kl(対前週7.9%増)と3週振りに前週比で増加、3週連続で前年比で減少となり、6週連続で100万klを下回った。

ジェット5.2万kl(対前週46.1%減)、灯油8.9万kl(対前週34.8%減)、軽油71.4万kl(対前週17.9%

増)、A重油19.4万kl(対前週16.8%増)、C重油25.6万kl(対前週2.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (7/2 ~ 7/8)	前週 (6/25 ~ 7/1)	前週比	
ガソリン	988	916	▲ 72	(8%)
ジェット燃料	52	97	▼ -45	(-46%)
灯油	89	136	▼ -47	(-35%)
軽油	714	605	▲ 109	(18%)
A重油	194	166	▲ 28	(17%)
C重油	256	251	▲ 5	(2%)
合計	2,293	2,171	▲ 122	(6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月8日時点の在庫は、ガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは177.2万kl、前週差4.9万kl減。前年に対して3.9万kl多い。

灯油は160.6万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては35.2万kl少ない。

軽油は151.3万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては0.9万kl少ない。

A重油は79.6万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては2.7万kl多い。

C重油は210.7万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては10.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (7/8)	前週 (7/1)	前週比	
ガソリン	1,772	1,821	▼ -49	(-3%)
ジェット燃料	1,109	1,110	▼ -1	(-0%)
灯油	1,606	1,552	▲ 54	(3%)
軽油	1,513	1,505	▲ 8	(1%)
A重油	796	782	▲ 14	(2%)
C重油	2,107	2,097	▲ 10	(0%)
合計	8,903	8,867	▲ 36	(0.4%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月4日から7月10日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりと思われる。

陸上スポット価格は、ガソリン103～104円台でやや強含み、軽油48円台でほぼ横ばい、灯油47円台でやや弱含みで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン104～105円台で軟化、軽油48～49円台でほぼ横ばい、灯油47～48円台でやや軟化して推移した。

先物価格は、ガソリン102～103円台で連日動き、軽油48

円台で横ばい、灯油46～47円台で連日動き推移した。元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、0.5円と1.0円の値上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、先物の軽油が横ばいであった以外は全て値上がりした。週間のガソリン出荷量(輸入分を除く)は、3週連続で前年割れ、3週振り以前週比増加となり、6週連続で100万kl割れとなった。

7月第3週(7月13日～7月19日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月4日～7月10日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値上がり、軽油は0.9円の値上がり、灯油は1.1円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円の値上がり、軽油は1.4円の値上がり、灯油は1.9円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.4円の値上がり、軽油が横ばい、灯油は1.5円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替は円安で、原油コストは値上がりとなった。

7月第3週の大手元売の卸価格は、0.5円から1.0円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均	今週 (7/4～7/10)	前週 (6/27～7/3)	前週比
	レギュラー	50.1	49.3
灯油	47.5	46.4	▲ 1.1
軽油	48.3	47.4	▲ 0.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (7/4～7/10)	前週 (6/27～7/3)	前週比
	レギュラー	49.4	48.0
灯油	47.3	45.8	▲ 1.5
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/4～7/10実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 1.1
灯油	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 1.3
軽油	▲ 0.9	▶ 0.0	▲ 0.5
A重油	▲ 0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

7月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの130.4円、軽油は横ばいの109.7円、灯油も横ばいの76.2円だった。ガソリンは12週振りの値上がり、軽油は5週振りに値下がりが止まり、灯油も12週振りに値下がりが止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは21都県、横ばいは12府県、値下がりは14道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、滋賀県の125.4円(前週比0.1円安)、次が徳島県と埼玉県の125.9円(各同1.4円高、0.1円高)だった。最高値は沖縄県の140.0円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比1.4円高の徳島

県(125.9円)、最も値下がりは同0.8円安の神奈川県(126.7円)、横ばいが沖縄県・長崎県・高知県・山形県・京都府・香川県・和歌山県・茨城県・富山県・石川県・鳥取県・岡山県だった。

原油コストは値上がりし、元売りの卸価格も0.5円から1.0円の値上げとなり、12週振りにガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、0.5円と1.0円の値上げに分かれた。次週(7月18日)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (7/10)	前週 (7/3)	前週比	直近高値	
	レギュラー	130.4	130.3	▲ 0.1	08/8/4
灯油	76.2	76.2	▶ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	109.7	109.7	▶ 0.0	08/8/4	167.4

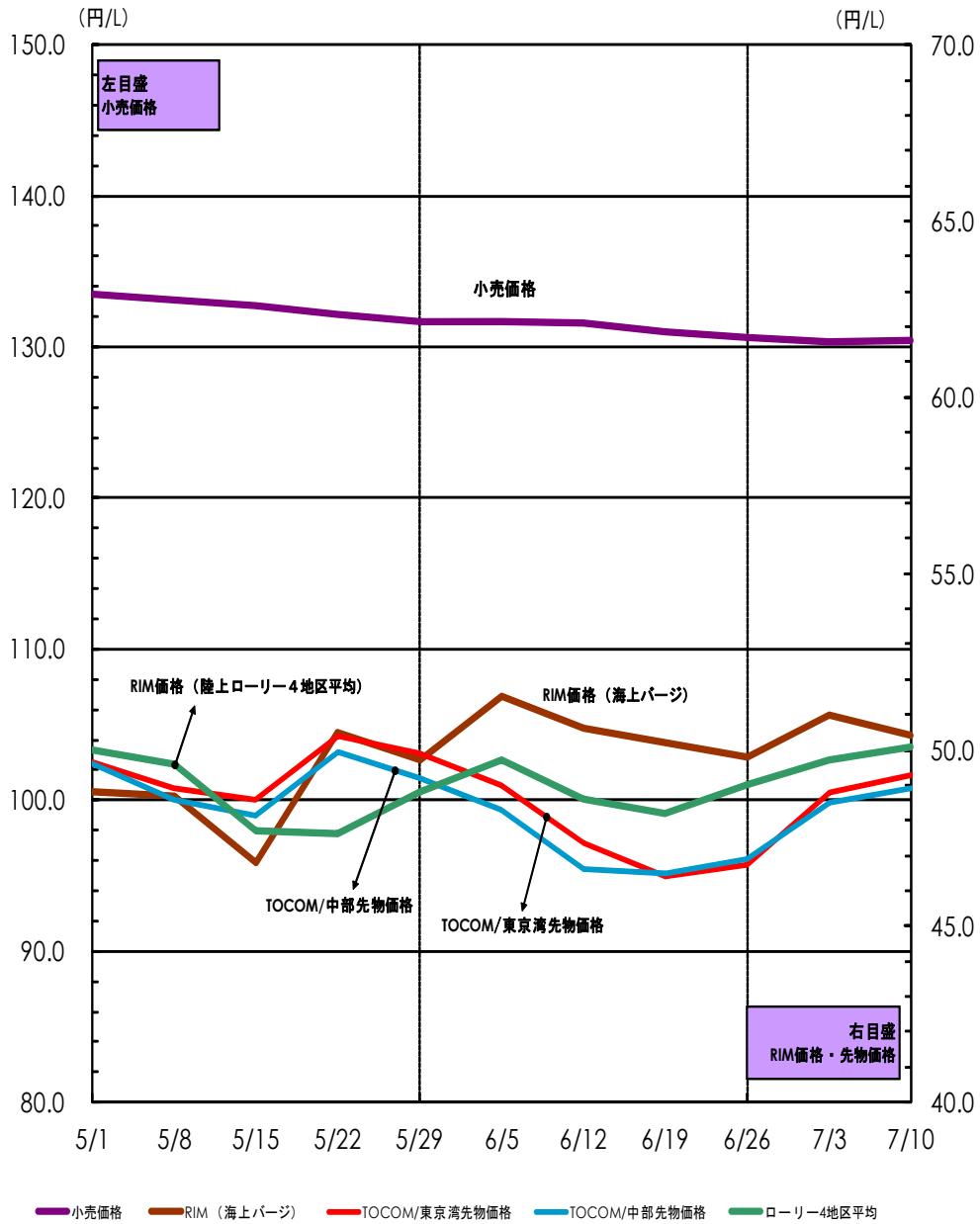
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/5/1 ~ 2017/7/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第15号)の公表は、7/21(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。